

WSE Japan 女性スポーツ組織の現状 ②

華やかに見える女性スポーツ界。しかし、解決しなければならない問題点は、やはりまだたくさんあります。それが抱えている問題点にもっと目をむけ、お互いに情報交換をしながらよりよい方向へ前進していきましょう。

前号に続き、各団体の活動状況や、抱えている問題点などについて、去る1月29日に開催されたWSE-Japan 1周年記念パーティーでの報告からまとめてみました。当日は、女性スポーツに関するいくつかの報告がありましたので、あわせてご紹介します。

(敬称略・発表順)

日本女子テニス連盟

理事長 宮城泰子

私たちの日本女子テニス連盟は、フェデレーションカップなどに選手を派遣するために設立された。その後、ジュニアのトーナメントも援助している。現在、連盟の支部は40都道府県にあるが、早く47都道府県全部に設置したい。今日の女子テニスの隆盛は、全国各地における組織の、地道な活動に依るところが大きいと思われる。また、地方の優秀な選手を見い出す結果にもなっている。

(社)日本女子プロゴルフ協会

理事 柳井映里

テニスにくらべ、まだまだ日本の女

子ゴルフ界の底の薄さを感じている。現在、ゴルフチームといわれているが、女子ゴルフの組織はまだ整っていないのが現状で、今後は、女性スポーツにおいては、女性スポーツに子供の層の薄さを感じている。

全日本女子クレー射撃クラブ

副会長 伊藤達子

私たちのクラブでは、男女一緒に競技する方向で活動してきた。クレー射撃は特殊なスポーツと思われるが、どちらが持つたための資格取得は簡単で手軽にできるスポーツなので、もっと多くの人たちに楽しんでほしいと思っています。

レディース(T.O.L.)

会長 小野清子

オリンピックでの女子の種目が増えたこともあって、選手の年齢化も進んでいる。このため、選手に付き添つて崩し、支える母親のような役割をする、シャベロンの復活が必要ではないかと思う。(日本選手団メンバーに東京五輪までは含まれていた)。私自身の体験からも、せひ、関係者の方にお願いしたいと思っている。また日本オリソピック選手に対する強化費8億円に対して、韓国は250億円、中国は450億円という事実があるが、国会議員という立場からも、予算委員会などで、この事実を認識してもらい、選手の競技生活の負担を理解してもらおうように努力していくたい。

ミセス招待サッカー フェスティバル事務局

会長 関 秀

私たちの団体は、設立が昭和58年とまだ新しいので、会の充実が当面の課題という段階であって、女子スポーツ界全体にまで目を向けるのは難しい状況にある。しかし、各団体の方とは少しずつ協力していくたいと思っている。

ミセス招待サッカー

事務局長 鶴崎千博

昨年、第1回ミセス招待サッカーフェスティバル(8人制)をWSE Japanに後援していただき開催された。

日本家庭婦人卓球連盟

会長 加藤紀生子

私たちの連盟は、一年間100円の会費でなんとか運営をしている。主な活動として、中国や台湾の人達と国際親善大会を行い、お互いの交流を深めています。

ボウリングは爆発的な人気のあと、昭和51年にはどん底まで落ちてしまつたが、その後、少しずつ持ち直して、当クラブも現在3000人の会員が在籍するまでになった。昭和54年から西武の提携明氏の協力を得て、プリンスカップを毎年開催しているが、来年2月には、後楽園の東京ドームでボウリング大会を行ふ予定。やはり資金に苦労しているので応援して頂きたい。

ジャパン・レディース・ボウリング・クラブ

事務局担当 藤原清子

金的にとても苦しいので、皆様のご支援をお願いしたい。



株式会社 服部セイコー
HATTORI SEIKO CO., LTD.

めている。また、日本レクリューション協会と提携して、全国各地を巡回しながら、家庭婦人が気軽に楽しめるよう、卓球の普及に努めている。

新体操の練習には、天井の高い施設が必要なことなどが、底辺までなかなか浸透しない理由ではないかと思う。今年4月より、新体操の教室を開く予定になっている。手軽にできるスポーツとして広めていきたい。

新体操インストラクター
新体操の競技登録者数(小学生以上)は、現在約8000人で、それ未満の児童までの人数は把握できていない。

新体操の練習には、天井の高い施設が必要なことなどが、底辺までなかなか浸透しない理由ではないかと思う。今年4月より、新体操の教室を開く予定になっている。手軽にできるスポーツとして広めていきたい。

清 和 洋 子

中央大学講師

私はヨーロッパにおける女性のスポーツ史を研究している。女性とスポーツのかかわりについて考えてみると、19世紀頃の社会的性差別が、そのままスポーツの世界での差別につながっている。「女性を訓練したのではなく、人間を訓練したのだ」という大松博文氏(東京五輪日本女子バレーボールチーム監督)の言葉が印象的である。

私はランニング・ライター(ランナーライター)を自認している。女性

ます。

「スポーツ批評」(季刊)という本を出して1年になる。私はこの本を通して種別に固まらず、ジャンルを越えて多くの人と交流していきたい。私は1982年にドーバー海峡を泳いだ時は、日本人初、しかも女性だといつて騒がれたが、それまでに300人以上の人が成功していたし、1987年の史上3番目的人は女性であった。実際、30km以上泳ぐには女性の方が強いといわれている。今後は、女性が○○をした、という言い方は減っていくであろう、そつてほしい。

皆さんそれぞれ多くの課題を抱えているようです。しかしこの報告を一つのきっかけとして、女性スポーツの1層の発展につなげていきたいと思います。

小 松 美 冬

フリー・ランスライター

私はランニング・ライター(ランナーライター)を自認している。女性